

# NISA の上限、100 万円や 120 万円の投資は 若い世代でも可能なの？

金融調査部 研究員 是枝 俊悟

-今回の数字-

## 年間 101 万 7,600 円

(何の数字であるかは、後ほど紹介します)

昨年からスタートした NISA（少額投資非課税制度）の年間投資非課税枠は現在 100 万円。これは、2016 年からは 120 万円に引き上げられます。

旧来からの投資経験層にとっては、この上限について「少なすぎる」という声をよく聞きます。今まで株式や投資信託に投資した金額と比べると年間 100 万円や 120 万円では物足りないように感じるようです。

一方で、これまで投資経験のない若い世代からは、年 100 万円や 120 万円というのは「多すぎ」で、そんなにたくさん投資に振り向けることなどできないという話もよく聞きます。

ですが、実は、34 歳以下の男性単身勤労者世帯の年間収支は、実に年間 101 万 7,600 円もの黒字になっているのです（これが、今回の数字です）。

年間 100 万円も貯められるのは相当に年収の高い人たちばかりじゃないの、と思った人もいられるかもしれませんが、調査対象の人の年収は税込みで年収 350 万円、手取りでは 298 万円です<sup>1</sup>。実に、手取りの 3 分の 1 以上も貯めているのが働いている一人暮らしの男性の「平均像」なのです……。

と言うと、ちょっと言い過ぎだったかもしれません。実は、データには少しカラクリがあります。今回の統計は総務省「家計調査」（2014 年）によるもので、この家計調査には若干のバイアスがあります。家計調査は、日々の支出について、詳細な「家計簿」をつける調査に協力した人だけのデータが集計されるため、マクロ統計よりも家計の黒字が多めに出る傾向があるの

<sup>1</sup> ちなみに、「家計調査」（2014 年）における 34 歳以下の女性単身勤労者世帯は、税込み年収が 326 万円、手取りは年 275 万円で、年間の黒字額は 70 万円です。

です。

一方で、詳細な家計簿をつけて日々の支出に対する意識を高めれば、同じだけの手取り収入がある人は家計を年間100万円の黒字にできる可能性があるとも言えるのではないのでしょうか。

お金を貯めやすくする工夫として、多くのフィナンシャルプランナーは先取り貯蓄をすすめています。給与やボーナスの支給時に予め一定額を積み立ててしまい、残りの額で生活するようにすると貯蓄は増やしやすくなります。例えば、毎月5万円、年2回のボーナス支給時に別に20万円を積み立てるようにすれば、年間100万円になります。

NISAを取り扱っているほとんどの金融機関では株式や投資信託の積立投資サービスを提供しています。自分はそのように貯められない、と思っている人も、家計簿と積立投資を利用して、NISAの年間100万円(または120万円)の非課税枠の「使い切り」に挑戦してみたいかどうか。

今回の数字—年間101万7,600円  
34歳以下男性・単身勤労者世帯の年間黒字額  
(出所)総務省「家計調査」(2014年)

もう少し学びたい人へ

#### ◆NISAをどのように活用すればいい？

→是枝俊悟「なるほどNISA(第8回前編) NISAをどのように活用するか—資産運用が家計改善の有力な選択肢に—」(2014年6月23日)

[http://www.dir.co.jp/research/report/finance/nisa/20140623\\_008678.html](http://www.dir.co.jp/research/report/finance/nisa/20140623_008678.html)

→是枝俊悟「なるほどNISA(第8回後編) NISAをどのように活用するか—時間分散・銘柄分散で安定的な運用を目指す—」(2014年6月25日)

[http://www.dir.co.jp/research/report/finance/nisa/20140625\\_008690.html](http://www.dir.co.jp/research/report/finance/nisa/20140625_008690.html)

※本稿は、「週刊ダイヤモンド」2014年2月15日号、24ページへの寄稿を再構成したものです。

(次回は、9月24日に掲載します)

以上